

学力向上のための指導の在り方

～学力向上のための授業改善に関する調査・実践研究（中学校2年英語）から～

教育センター学習指導部

はじめに

教育センターでは、「学力向上」を目指した授業改善に資するため、平成6年度から調査・実践研究を行ってきた。

ここでは、一昨年、昨年と行ってきた実践研究から、「中学校2年英語」について述べる。

1 研究の視点

英語科における「話すこと」のより有効な指導の在り方を考察するため、平成11年度は、2年生に対して、以下の視点から指導計画や練習活動の在り方を工夫し、授業を実践した。

(1) 指導計画の工夫

「話すこと」の重点指導期間を設け、その期間内の「話すこと」の言語活動の時間及び発展的な言語活動を行う時間を、毎授業のはじめの15分間確保する。その上で、指導期間を3つのステージに分け、ねらいを決めて段階的に取り組み、最終的に自分のスピーチができるようにする。

(2) 練習活動の工夫

3年生における研究で課題とされた「アクセント」、「相手との対応」、「スピーチの内容」の3つを、重点項目として練習する機会を設ける。

(3) 「話す力」をとらえる方法の工夫

生徒の「話す力」の変容を細かくとらえるため、各種テストを実施するとともに、各ステージの「話すこと」の活動を録音する。

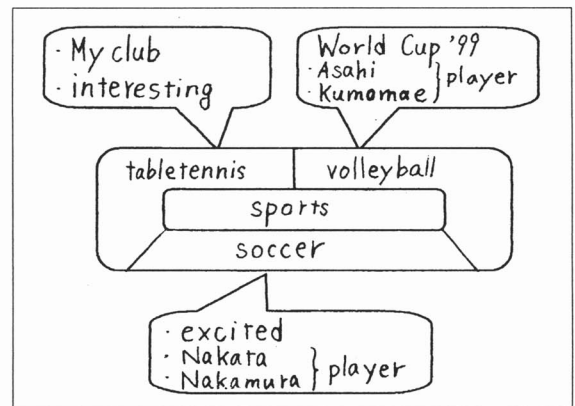
2 実践研究

(1) 授業の実際

① ステージ I

時間	ステップ1 （「話すこと」の体験）
1	・トピックを決めて、マッピングによってスピーチの内容を考える。
2	・マップを見ながら、できるだけ多く英語で話す。（1分間話し続けられるように） ・活動を振り返り、自己評価を行う。

〈マッピングの例〉



英語を話すことに抵抗があったようだが、マップを見ながら何とか取り組んでいた。

時間	ステップ2 （アクセントの練習）
1 ・ 2	・カタカナ発音（1、2年の教科書にある英単語の発音等をカタカナ表記したもの）や練習の進め方を理解する。
3 } 11	・ペアで、「正しいアクセントで言えるか」、「正しく書けるか」をゲーム形式で練習する。 ・5問は、教師が出題し、残りの5問は生徒が考えて出題する。